

2) 目的別トリップ数

検討対象地域周辺を終点とするトリップ集中量の目的別内訳を見ると、平日・休日ともに「自由」目的の移動が高くなっており、特に休日は自由目的のトリップが全体の91%を占める。

また、トリップ集中量の目的別の推移をみると、昭和55年から平成12年にかけて、「自由」目的のトリップが最も高い伸び率(2.31)を示しており、買い物・レクリエーション等のための交通流動が活発化してきたと考えられる。

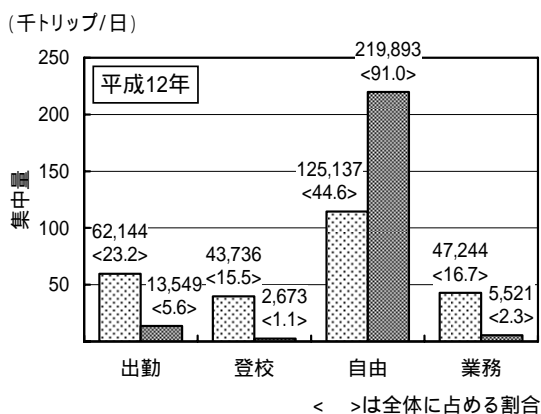


図 29 検討対象地域周辺の目的別トリップ数 (集中量、平日・休日)

出典：第4回京阪神パーソントリップ調査 (平成12年)

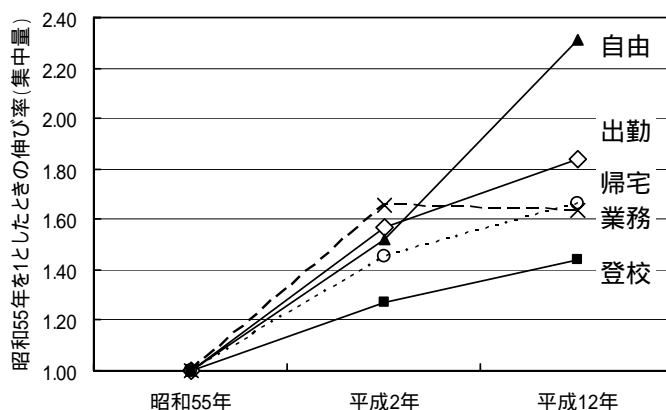


図 30 検討対象地域周辺の目的別トリップ数の推移 (集中量、平日)

出典：同左

3) 自由行動の目的施設

上記の「自由」目的のトリップにおける、目的地となる施設の内訳をみると、平日・休日ともに「商業系施設」へのトリップが最も多く(平日約55%、休日約69%)、次いで「住居系施設」(平日約34%、休日約24%)となる。特に商業系施設へのトリップは、滋賀県全体と比べて高い割合となっている。

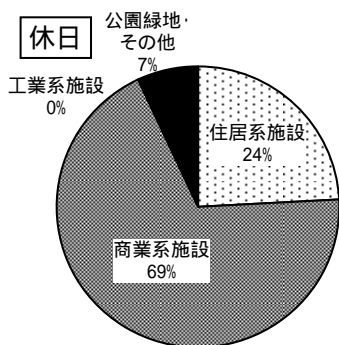
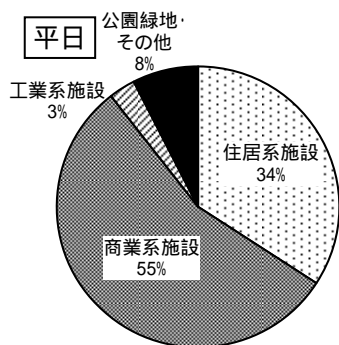


図 31 検討対象地域周辺の目的施設別集中量構成比 (平日・休日)

出典：第4回京阪神パーソントリップ調査 (平成12年)

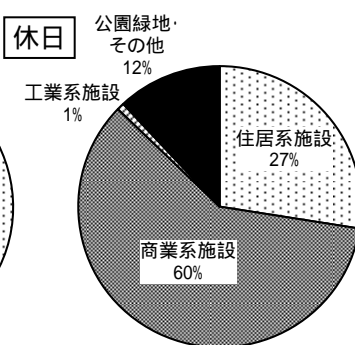
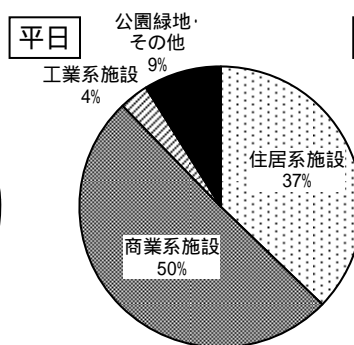


図 32 滋賀県の目的施設別集中量構成比 (平日・休日)

出典：同左

施設の細分をみると、平日は「スーパー・デパート等」へのトリップが最も多く、ついで「教育施設・学校等」「個人商店・コンビニ等」となっている。休日は、平日と比べ商業系施設へのトリップが多く、特に「スーパー・デパート等」へのトリップ数が大きくなっている。これらのことより、同地域における自由行動は、「スーパー・デパート等」をはじめとする商業系施設を目的とする買い物行動が主であり、県全体と比較して高い頻度で行動していることが伺える。

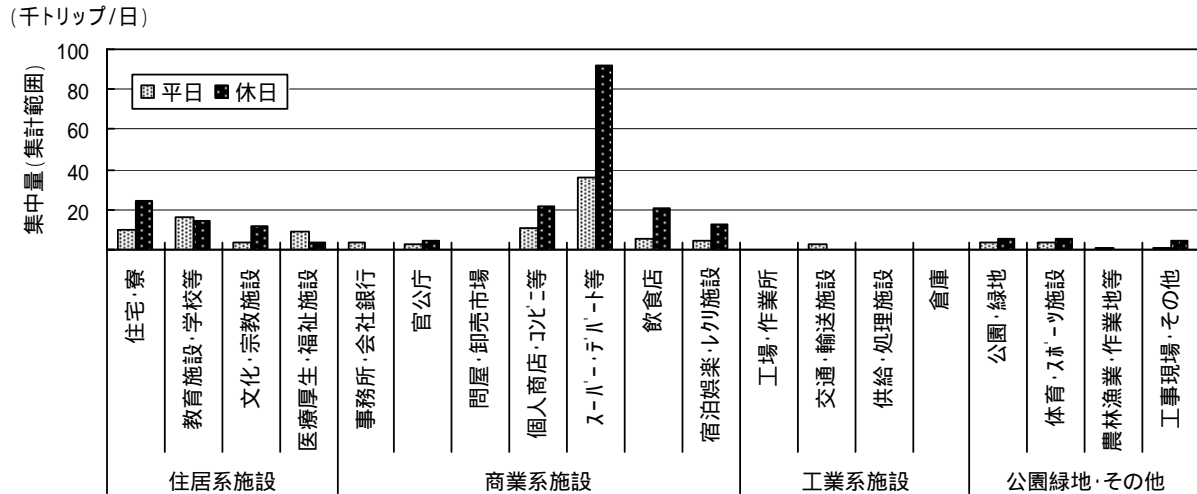


図 33 検討対象地域周辺の目的施設別集中度(細分、平日・休日)
出典：第4回京阪神パーソントリップ調査(平成12年)

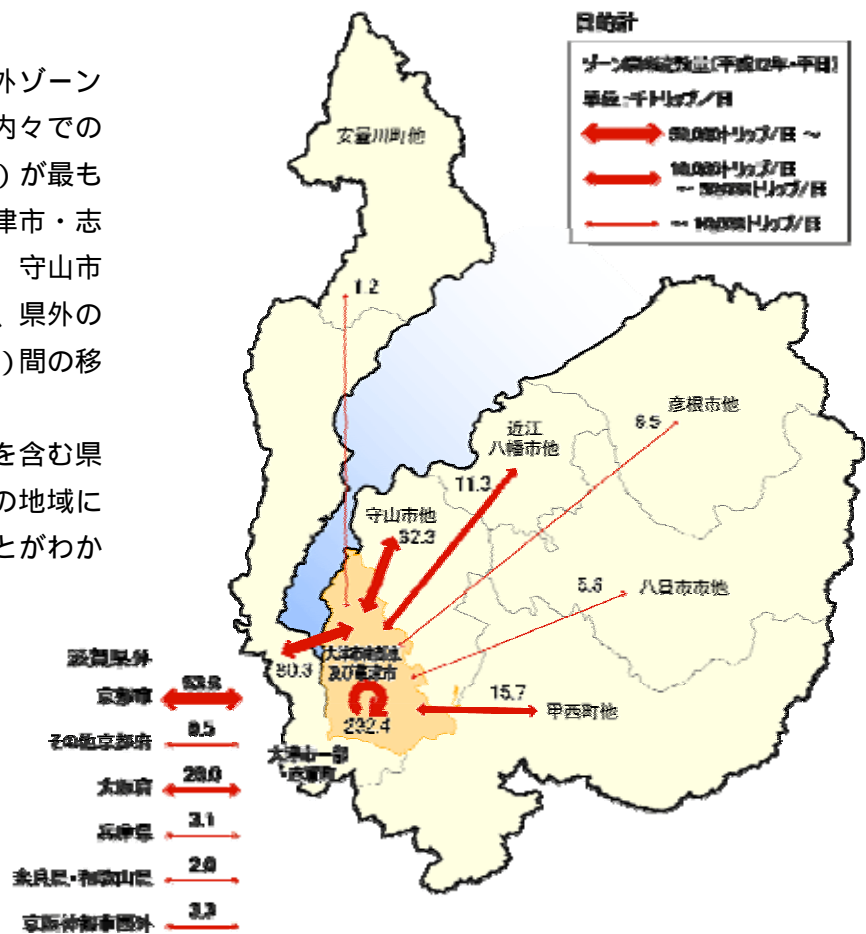
4) ゾーン間の流動

検討対象地域周辺と県内外ゾーン間の流動は、平日では地域内々での移動(約292.4千トリップ/日)が最も多く、次いで、隣接する大津市・志賀町(約80.3千トリップ/日)、守山市他(約82.3千トリップ/日)間、県外の京都市(約53.6千トリップ/日)間の移動が多くなっている。

このことから、地域内々を含む県南部～京都市一帯にかけての地域に移動範囲が集中していることがわかる。

図 34 検討対象地域周辺と各ゾーン間の流動量(平日)

出典：同上



休日における流動は、平日と同様の傾向を示すが、近江八幡市他（約 8.5 千トリップ / 日）や彦根市他（約 3.5 千トリップ / 日）、大阪府（約 9.4 千トリップ / 日）などへのトリップが平日よりも減少する傾向がある。

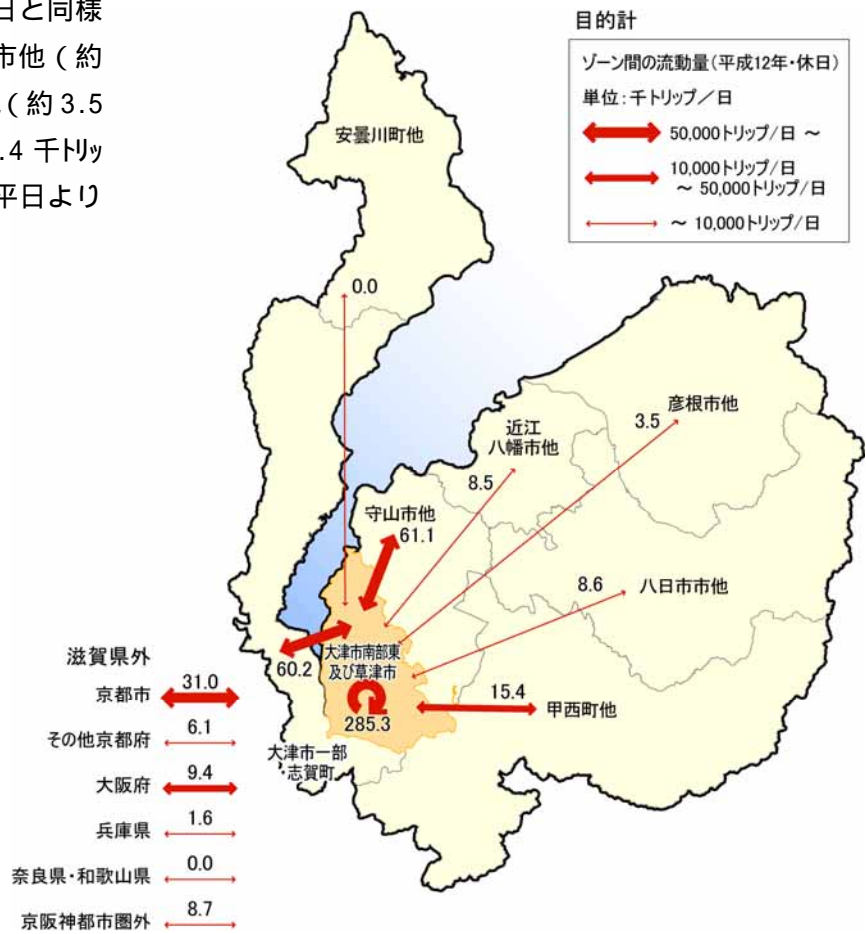


図 35 検討対象地域周辺と各ゾーン間の流動量 (休日)

出典：第4回京阪神パーソナルトリップ調査(平成12年)

5) 代表交通手段

検証対象地域周辺の代表交通手段割合の推移をみると、昭和55年時点で28.0%であった「自動車」が、平成12年時点で47.1%と大幅に増加している。

一方、「バス」「二輪」「徒歩」の割合が減少している。

また、「鉄道」は平成2年時点で微減となったものの、平成12年時点では若干の増加の傾向にある。

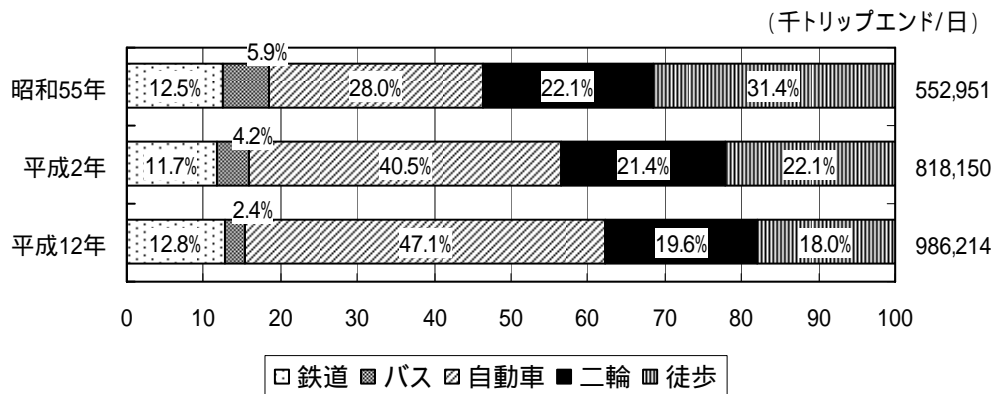


図 36 検討対象地域周辺の代表交通手段割合の推移 (発生集中量、平日)

出典；同上

6) 駅端末交通

検討対象地域周辺に所在する鉄道駅（JR草津駅、JR南草津駅、JR瀬田駅）における鉄道端末交通手段をみると、特に南草津駅及び瀬田駅においてバスの利用が他の周辺駅と比べ高い割合を占めている。

これらより地域一帯は、鉄道＝バスの乗り継ぎ需要が高く、びわこ文化公園都市へのアクセスについても、公共交通手段としてバス交通の需要が高いことが想定される。

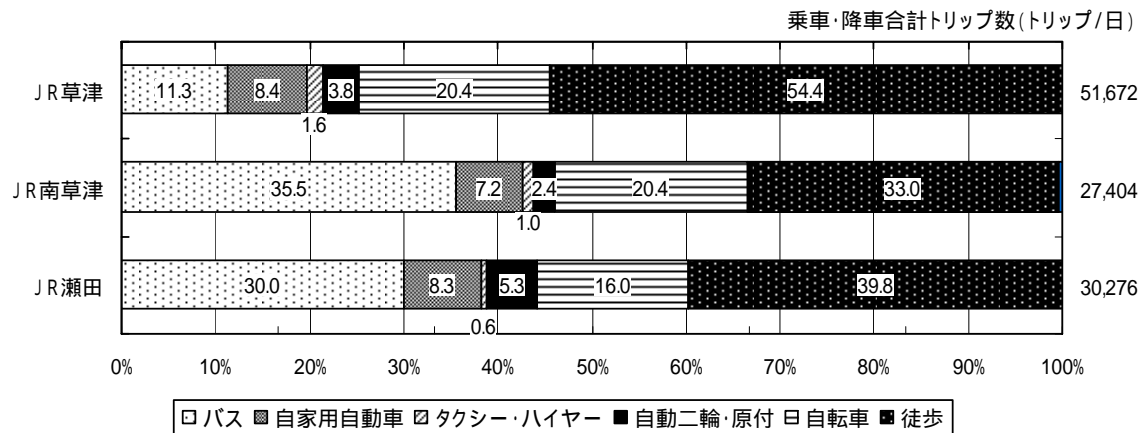


図 37 検討対象地域周辺内の駅の鉄道端末交通手段割合（乗車・降車計、平日）
出典：第4回京阪神パーソントリップ調査（平成12年）

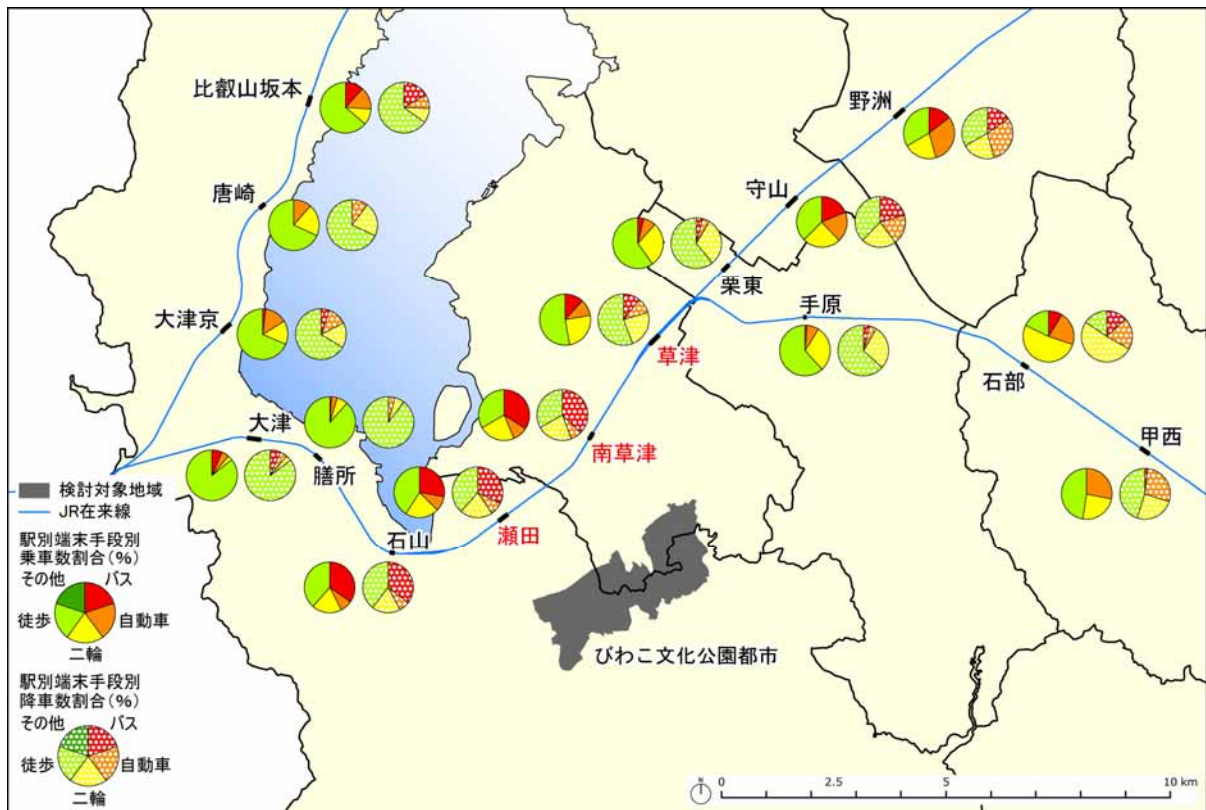


図 38 鉄道駅の鉄道端末交通手段割合（乗車・降車別、平日）
出典：同上

4 . 人口減少と少子高齢化の状況

(1) 全国および滋賀県の人口の推移

日本の人口は、平成 17 (2005) 年の国勢調査では 1 億 2,777 万人、平成 22 年には 1 億 2,806 万人であった。国立社会保障・人口問題研究所による出生中位推計の結果に基づくと、この総人口は、以後長期の人口減少過程に入るとみられる。平成 42 (2030) 年には、1 億 1,522 万人となり、平成 58 (2046) 年には、1 億人を割って 9,938 万人となるものと推計されている。このように、日本は人口減少時代に突入し、右肩上がりの人口増加の趨勢は終焉する。

日本の出生率が 1970 年代半ばから人口を一定の規模で保持する水準 (人口置換水準、合計特殊出生率で 2.08 前後の水準) を大きく割り込んでいるため、今後の見通しは超人口減少化がほぼ避けることの出来ない現象となる。

一方、滋賀県の人口については、現在も緩やかに増加しつつあるが、平成 27 (2015) 年前後をピークとして、減少に転じることが予測されており、全国よりもやや遅れて、人口減少が始まると考えられる。

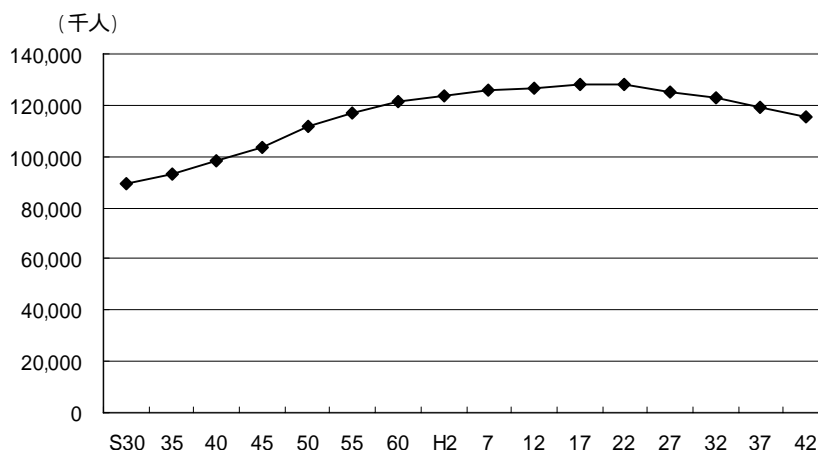


図 39 全国の人口推移

出典：平成 22 年度までの実績値は国勢調査。平成 27 年以降の推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成 18 年 12 月推計)。

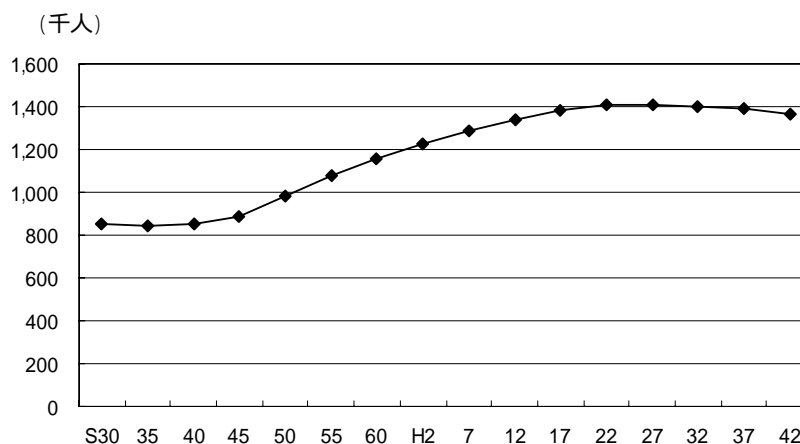


図 40 滋賀県の人口の推移

出典：平成 22 年度までの実績値は国勢調査。平成 27 年以降の推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成 19 年 5 月推計)。

(2) 全国および滋賀県の年齢別人口の推移

全国の年齢別人口では、年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口が増加しつづけており、平成 42 (2030) 年には、老年人口が 31.8%、年少人口が 9.7%となることが予測されている。

滋賀県においても、全国と比べると変化の程度はやや緩やかではあるが、年少人口、生産年齢人口の減少と老年人口の増加が進んでおり、平成 42 (2030) 年には、老年人口が 28.4%、年少人口が 11.2%となることが見込まれる。

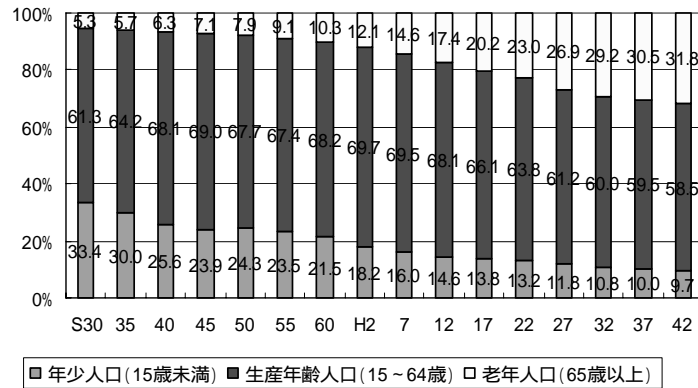


図 41 全国の年齢別人口比率の推移

出典：平成 22 年度までの実績値は国勢調査。平成 27 年以降の推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成 18 年 12 月推計)

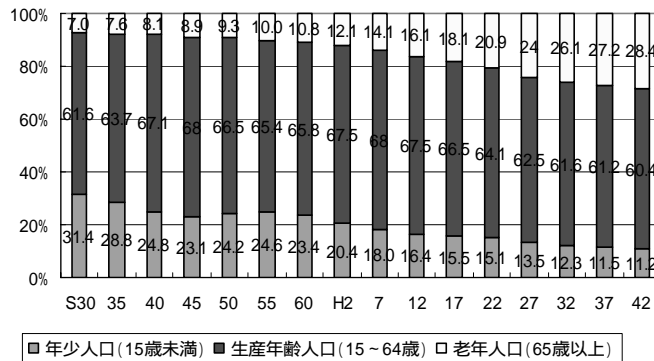


図 42 滋賀県の人口の推移

出典：平成 22 年度までの実績値は国勢調査。平成 27 年以降の推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成 19 年 5 月推計)

(3) 周辺地域における家族形態の変化

大津市における家族形態の変化をみると、核家族世帯および単独世帯が増加しており、世帯人員の少ない、あるいは一人暮らしの世帯が増えつつある。

また、草津市においても、同様に、核家族世帯と単独世帯が増加しているが、特に平成6(1994)年の立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開設にともない、単独世帯が急激に増加している。

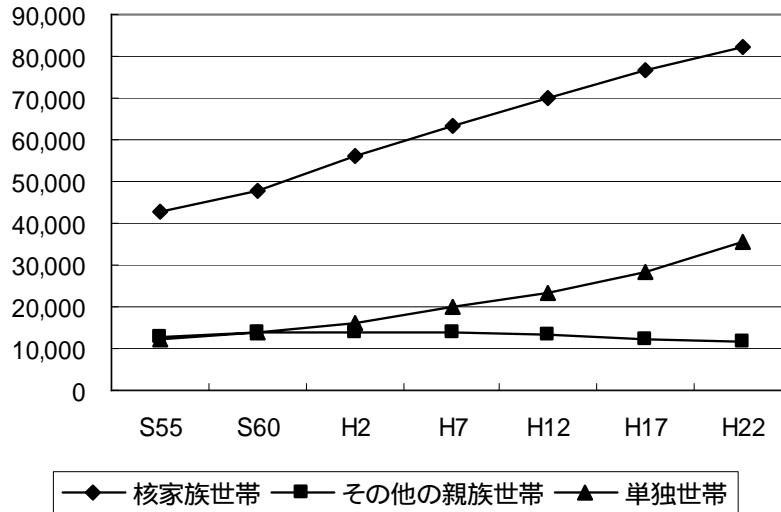


図 43 大津市における家族形態の変化
出典：国勢調査

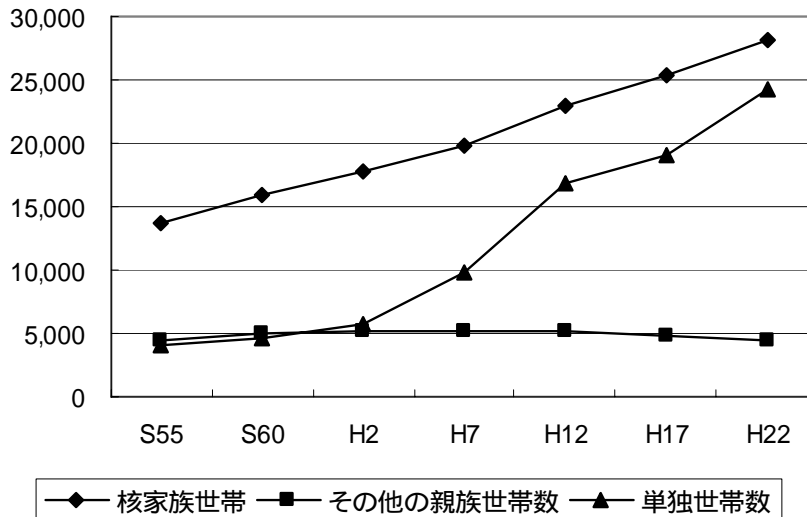


図 44 草津市における家族形態の変化
出典：同上

5. びわこ文化公園都市に関する県政モニターアンケート調査の結果

(1) 調査概要

びわこ文化公園都市の認知度などを把握するため、下記の要領で県政モニターアンケートを実施した。

【実施時期】 平成23年(2011年)10月

【対象者】 県政モニター(352人)

【回答数】 280人(回収率:79.5%)

【担当部課】 総合政策部企画調整課

【調査目的】 びわこ文化公園都市に対する県民の認知度、利用状況等を把握し、検討委員会での議論の参考とすることを目的として実施。

(2) 調査結果

1) 回答者属性

男女比は男性が約56%、女性が約44%で、年齢区分は60歳代が最も多い。また、居住地は天津地域が約33%と多くなっている。

表 11 性別

項目	回答数	割合
1 男性	157	56.1%
2 女性	123	43.9%
計	280	100.0%

表 12 年齢区分

項目	回答数	割合
1 10・20歳代	22	7.9%
2 30歳代	56	20.0%
3 40歳代	61	21.8%
4 50歳代	43	15.4%
5 60歳代	69	24.6%
6 70歳以上	29	10.4%
計	280	100.0%

表 13 居住地

項目	1 天津地域	2 湖南地域	3 甲賀地域	4 東近江地域	5 湖東地域	6 湖北地域	7 高島地域	計
回答数	93	83	23	39	16	17	9	280
割合	33.2%	29.6%	8.2%	13.9%	5.7%	6.1%	3.2%	100.0%

2) びわこ文化公園都市の認知度

Q1. これまで、「びわこ文化公園都市」という名称を聞いたことがありますか。また、行ったことがありますか。(回答チェックは1つだけ)

びわこ文化公園都市の認知度は、「名称を知っていて、行ったことがある」と「名称は知っているが、行ったことがない」の回答を合計すると47.5%で、約半数の認知度となっている。また、「行ったことがあるが名称を知らない」との回答が約32%である一方、「名称も知らないし、行ったこともない」との回答が約20%で、びわこ文化都市の名称についての認知度はそれほど高くない。

表 14 認知度

項目	回答数	割合
1 名称は知っていて、行ったこともある(居住している・居住していた)	110	39.3%
2 名称は知らなかったが、行ったことはある(居住している・居住していた)	90	32.1%
3 名称は知っているが、行ったことはない	23	8.2%
4 名称も知らないし、行ったこともない	57	20.4%
計	280	100.0%

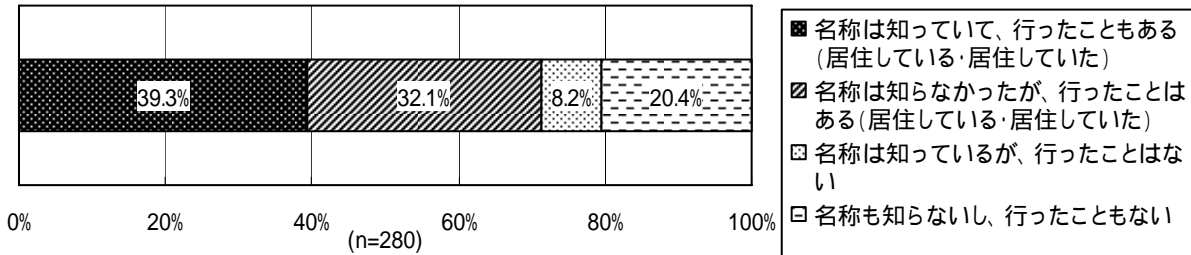


図 45 認知度

3) 来訪歴

Q2 - 1 . これまでに行ったことがある、びわこ文化公園都市の区域内的の施設や機関等すべてにチェックしてください。(複数回答)

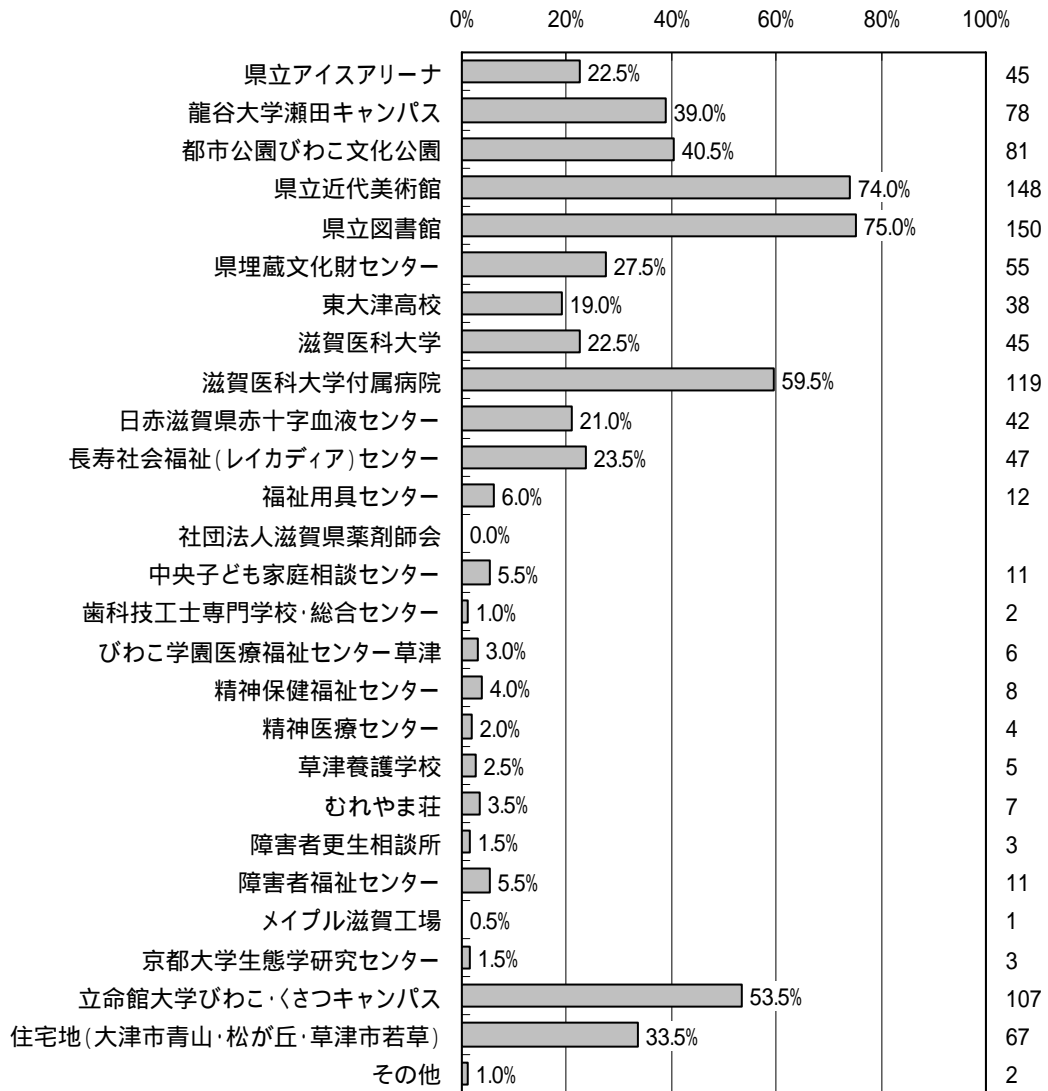
びわこ文化都市の施設への来訪歴のうち、最も多いのが県立図書館(75%)で、次に県立近代美術館(74%)、滋賀医科大学付属病院(59.5%)、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(53.5%)、都市公園びわこ文化公園(40.5%)、龍谷大学瀬田キャンパス(39%)と続く。

また、住宅地への来訪も33.5%である。

こうした結果から、当該地域に立地する文化、学術・教育、医療施設への来訪歴が多い結果となっている。

表 15 来訪歴

項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1 県立アイスアリーナ	45	22.5%	15 歯科技工士専門学校・総合センター	2	1.0%
2 龍谷大学瀬田キャンパス	78	39.0%	16 びわこ学園医療福祉センター草津	6	3.0%
3 都市公園びわこ文化公園	81	40.5%	17 精神保健福祉センター	8	4.0%
4 県立近代美術館	148	74.0%	18 精神医療センター	4	2.0%
5 県立図書館	150	75.0%	19 草津養護学校	5	2.5%
6 県埋蔵文化財センター	55	27.5%	20 むれやま荘	7	3.5%
7 東大津高校	38	19.0%	21 障害者更生相談所	3	1.5%
8 滋賀医科大学	45	22.5%	22 障害者福祉センター	11	5.5%
9 滋賀医科大学付属病院	119	59.5%	23 メイプル滋賀工場	1	0.5%
10 日赤滋賀県赤十字血液センター	42	21.0%	24 京大大学生態学研究センター	3	1.5%
11 長寿社会福祉(レイカディア)センター	47	23.5%	25 立命館大学びわこ・くさつキャンパス	107	53.5%
12 福祉用具センター	12	6.0%	26 住宅地(大津市青山・松が丘・草津市若草)	67	33.5%
13 社団法人滋賀県薬剤師会	0	0.0%	27 その他	2	1.0%
14 中央子ども家庭相談センター	11	5.5%			



(n=200) (回答数)

図 46 来訪歴

その他の施設・機関等

-

4) 来訪目的

Q 2 - 2 . びわこ文化公園都市に行かれた目的すべてにチェックしてください。(複数回答)

来訪目的をみると、「図書館利用」、「美術・文化財観賞」などの文化行動が 70% 近くを占める。さらに、「イベント参加」が 42% と当該施設への催しの参加も多いことがわかる。

また、「見舞い・面会」が 33% で「治療リハビリ」が 29% と医療・福祉関連行動が全体の 1 / 3 程度をしめ、さらに「受講」が 30% と生涯教育の場ともなっている。

次に、「散策・散歩」ならびに「レクリエーション」がそれぞれ約 35%、約 23% で、当該地域の公園や緑の利用を併せると約 50% になる。

また、その他の目的として、花見やボランティア、研修などもあげられている。

このように、びわこ文化公園都市に立地する施設の特性に添って、来訪目的は多様である。

表 16 来訪目的

項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1 図書館利用	144	72.0%	11 調査	10	5.0%
2 美術・文化財鑑賞	143	71.5%	12 研究	8	4.0%
3 イベント参加	84	42.0%	13 受講	60	30.0%
4 通勤	11	5.5%	14 指導	2	1.0%
5 通学	9	4.5%	15 物品購入	10	5.0%
6 相談	14	7.0%	16 散策・散歩	69	34.5%
7 献血	26	13.0%	17 レクリエーション	45	22.5%
8 治療・リハビリ	58	29.0%	18 居住	5	2.5%
9 送迎	37	18.5%	19 その他	14	7.0%
10 見舞い・面会	66	33.0%			

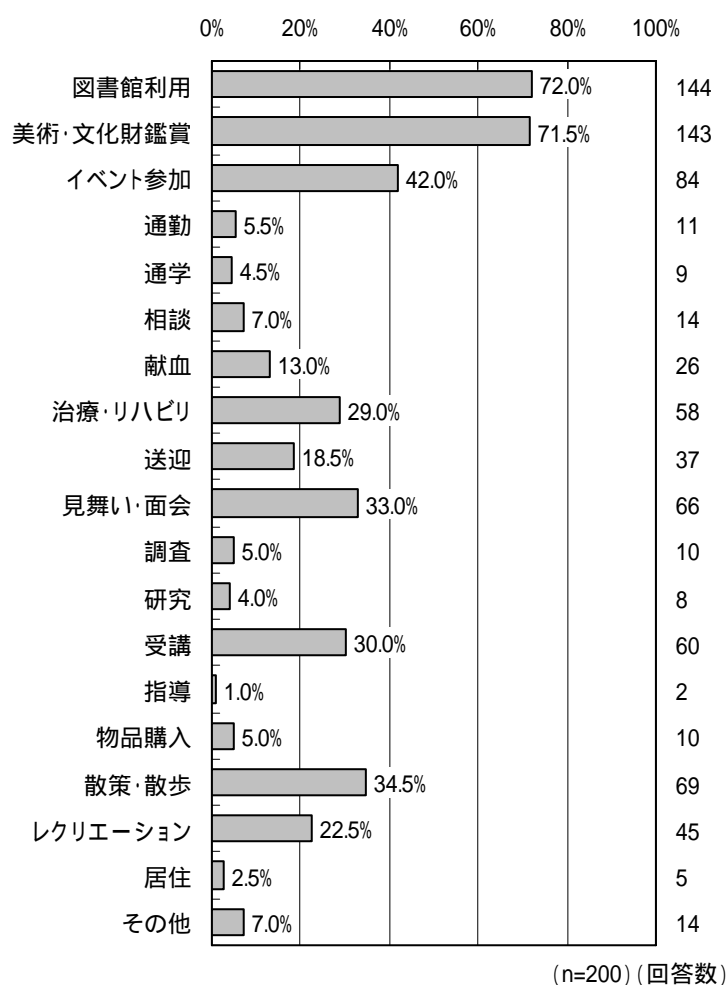


図 47 来訪目的

その他の目的

- | | |
|---------|--------|
| ・花見・友人 | ・知人宅訪問 |
| ・ボランティア | ・受験 |
| ・研修 | |

5) 利用交通手段

Q2 - 3 . びわこ文化公園都市に行かれた際の、交通手段の利用状況についてお尋ねします。
 次の各交通手段について、利用状況をお答えください。(各項目回答チェックは1つ
 だけ)

当該地域への利用交通手段のうち、「よく利用する」との回答は、自家用車が約79%と大半を占め、路線バスが約12%と続く。その他としては、バイクや観光バス、コミュニティバス(草津市まめバス)、車椅子などの回答が得られた。

この結果、当該地域へは自家用車を利用手段とし、路線バスが補完している結果となっている。

表 17 利用交通手段

項目	1 よく利用する	2 たまに利用する	3 利用しない	計
1 路線バス	23 11.5%	52 26.0%	125 62.5%	200 100.0%
2 タクシー	3 1.5%	16 8.0%	181 90.5%	200 100.0%
3 自家用車	157 78.5%	21 10.5%	22 11.0%	200 100.0%
4 自転車	10 5.0%	21 10.5%	169 84.5%	200 100.0%
5 徒歩	5 2.5%	23 11.5%	172 86.0%	200 100.0%

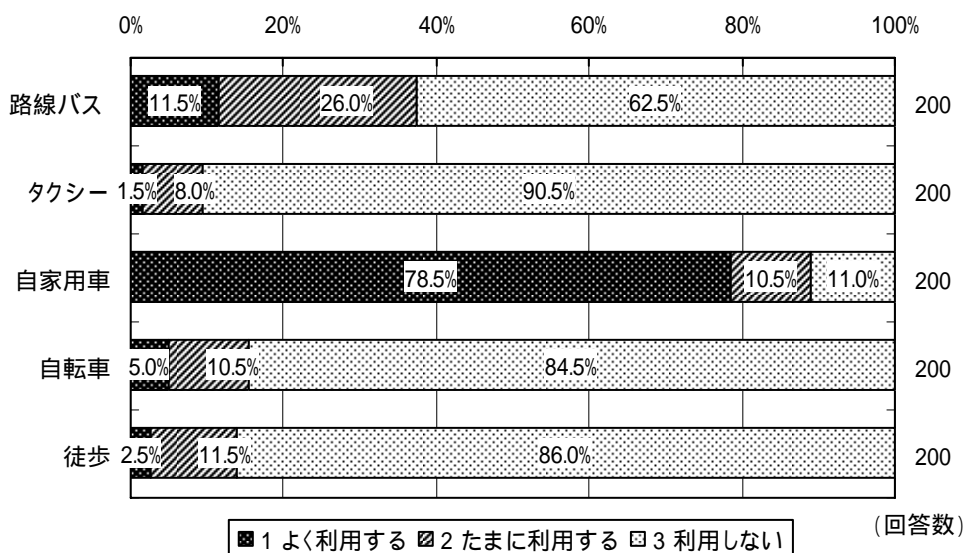


図 48 利用交通手段

その他の交通手段

- ・バイク
- ・その他自動車(営業車・公用車)
- ・観光バス
- ・コミュニティバス(草津市まめバス)
- ・車椅子

6) びわこ文化都市のイメージ

Q3. びわこ文化公園都市のイメージについてお尋ねします。次の各項目ごとに、イメージされる程度をお答えください。(各項目ごとに回答チェックは1つだけ)

びわこ文化都市のイメージとして最も多いのが「自然・緑が豊かで癒される」で、「そう思う」と「少し思う」との回答を併せると約91%になる。

表 18 びわこ文化都市のイメージ

項目	1 そう思う	2 少し思う	3 あまり思わない	4 思わない	5 わからない	計
1 自然・緑が豊かで癒される	149 53.2%	107 38.2%	12 4.3%	7 2.5%	5 1.8%	280 100.0%
2 学生など若い人が多く活気がある	66 23.6%	113 40.4%	80 28.6%	13 4.6%	8 2.9%	280 100.0%
3 文化的な雰囲気があり心豊かになる	99 35.4%	126 45.0%	40 14.3%	8 2.9%	7 2.5%	280 100.0%
4 県内の他地域にはない専門的・高度な機能がある	64 22.9%	113 40.4%	69 24.6%	14 5.0%	20 7.1%	280 100.0%
5 将来的に発展の可能性がある	45 16.1%	120 42.9%	78 27.9%	23 8.2%	14 5.0%	280 100.0%
6 交通の利便性がよい	16 5.7%	40 14.3%	106 37.9%	105 37.5%	13 4.6%	280 100.0%
7 様々な年代の人々が利用している	68 24.3%	120 42.9%	55 19.6%	21 7.5%	16 5.7%	280 100.0%
8 立地する大学のノウハウが地域づくりに活かされている	17 6.1%	93 33.2%	97 34.6%	33 11.8%	40 14.3%	280 100.0%
9 立地する機関・施設が効果的に連携している	14 5.0%	93 33.2%	90 32.1%	35 12.5%	48 17.1%	280 100.0%
10 京阪神圏と名古屋圏の結節点として機能している	13 4.6%	23 8.2%	116 41.4%	96 34.3%	32 11.4%	280 100.0%
11 閑静な住宅地	50 17.9%	124 44.3%	59 21.1%	14 5.0%	33 11.8%	280 100.0%

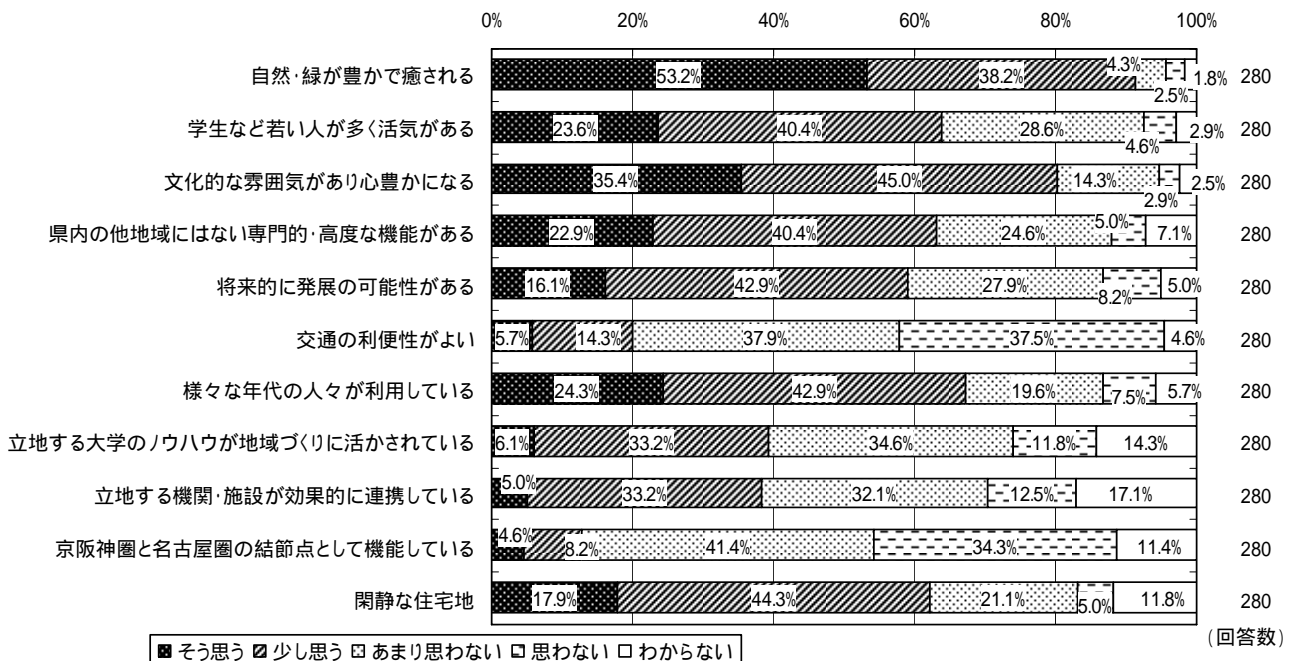


図 49 びわこ文化都市のイメージ

その他のイメージ

- ・有効利用されていない、惜しい空間と思う
- ・交通の便が非常に悪い(自家用車がないと気軽に行けない)

7) びわこ文化都市への期待

Q4. 将来、びわこ文化公園都市にどのような機能や役割を期待されますか。次の各項目ごとに期待される程度をお答えください。(各項目ごとに回答チェックは1つだけ)

びわこ文化都市への期待は「高度・専門的な医療の拠点」、「文化・芸術の拠点」、「学術・研究の拠点」、「安全に憩える整備された公園」がそれぞれ40%を超えており、立地施設の機能をより一層充実させることが期待されている。

表 19 びわこ文化都市への期待

項目	1 そう思う	2 少し思う	3 あまり思わない	4 思わない	計
1 高度・専門的な医療の拠点	129 46.1%	111 39.6%	34 12.1%	6 2.1%	280 100.0%
2 高度・専門的な福祉の拠点	90 32.1%	124 44.3%	52 18.6%	14 5.0%	280 100.0%
3 文化・芸術の拠点	133 47.5%	112 40.0%	29 10.4%	6 2.1%	280 100.0%
4 学術・研究の拠点	121 43.2%	121 43.2%	32 11.4%	6 2.1%	280 100.0%
5 産業創出の拠点	38 13.6%	108 38.6%	111 39.6%	23 8.2%	280 100.0%
6 人材育成の拠点	83 29.6%	132 47.1%	53 18.9%	12 4.3%	280 100.0%
7 安全に憩える整備された公園	122 43.6%	115 41.1%	34 12.1%	9 3.2%	280 100.0%
8 都市近郊に残る貴重な森林	109 38.9%	127 45.4%	34 12.1%	10 3.6%	280 100.0%
9 健康維持向上や介護予防のためのフィールド	74 26.4%	139 49.6%	57 20.4%	10 3.6%	280 100.0%
10 多くの県民が集い、交流するフィールド	81 28.9%	119 42.5%	67 23.9%	13 4.6%	280 100.0%
11 閑静な住宅地	50 17.9%	126 45.0%	83 29.6%	21 7.5%	280 100.0%

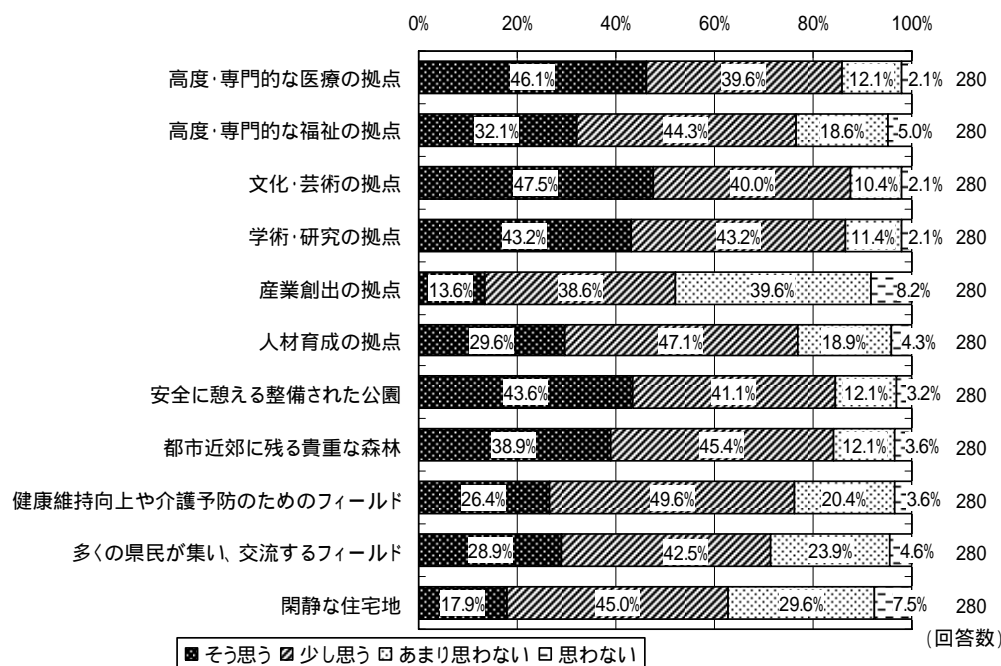


図 50 びわこ文化都市への期待

その他の期待

・交通至便。広報でいつも案内されている地域